

天塩川 NEWS 流域委員会ニュース VOL.3

『第4回天塩川流域委員会が平成16年12月6日に開催されました！』

【天塩川流域委員会とは？】

・北海道開発局は「天塩川水系河川整備基本方針」に基づき、「天塩川水系河川整備計画(大臣管理区間)」を策定するにあたり、学識経験者等からご意見をいただくことを目的として「天塩川流域委員会」を平成15年5月30日に設置しました。



▲第4回天塩川流域委員会の様子

●第4回 天塩川流域委員会では以下のようなことが議論されました。

■主な意見

【天塩川水系河川整備計画について】

(流域の概要)

・サクラマス・ヤマメの分布図は、基礎となる調査データについて、精査・検討をすべきである。検討を行うならば、ヤマメが確認されているというよりも産卵がどのくらい確認されているかということを基準においた方が良い。

(河川整備基本方針)

・基本高水流量は、安全を重視して最大のピーク流量を採用しているため、過大な治水対策が求められることになり、自然環境保全と治水との調整が困難となる場面がある。100分の1確率雨量224mmに昭和48年の降雨パターンを当てはめ、ピーク流量 $6400\text{m}^3/\text{s}$ としているが、それ以上の降雨量233mmがあった昭和56年でも、 $4400\text{m}^3/\text{s}$ であり、基本高水流量は、一つの基準であって絶対的なものではないと思う。

・昨年の日高の豪雨をはじめ、全国的にも計画を上回る現象が多々発生しており、計画を上回る可能性はいくらでもある。データ整備が進んだ近年でさえ、4、50年間にこういうことが全国的に起こっていることを認識すべきである。

・洪水流量増加の原因には、流域内の土地利用の変化、森林の伐採、保水力の変化などがあるのではないかと。森林の保水力の検討が必要である。

・天塩川の流域面積を踏まえると、流域の土地利用の変化・

都市化によるというより、計画策定後のデータの蓄積や大きな降雨や洪水が発生したからではないか。

(治水)

・岩尾内ダムの洪水調節効果量を水位に換算して示してほしい。

・ケース2の場合では、河道掘削によりサケの産卵床が保全できない箇所が生じるとあるが、サケの産卵床の位置を考えて低水路を掘削する等、技術的に解決できるのではないかと。その事をもっと検討する必要がある。

・サケの産卵床は湧水のある場所など周辺環境と関連した場所にあるので、河道掘削は産卵床の周辺環境を含めて考えるべきである。

・過去の洪水の原因をわかる範囲で整理し、その具体的対策を検討した上で、全体としてどのように整備すべきかを議論したい。また、昭和46年に岩尾内ダムが完成した後も洪水氾濫が起こっており、岩尾内ダムの洪水を防ぐ効果は小さかったのではないかと。また、平成4年以降本流、名寄川ともに洪水、氾濫面積が大きく減少しているのはなぜか。

・子供の頃大きな雨が降ると家の前にはいつも水が溢れ長靴でざばざば越えて歩くような状態であったが、昭和46年に岩尾内ダム完成以降、そういう傾向は無くなった。

・昭和までは雨が降ると特に雄信内地区を含めて川が氾濫していたが、この10年位前から水がつくのは一部であって、川の整備が進み、氾濫が非常に少なくなってきたという印象を持っている。



- ・今までの洪水では、岩尾内ダム下流の支川で集中豪雨が降り、本川と合流する部分で流量が急激に増えることが多かった。山の保水能力がなくなり、また、雨が降ると河川に一気に流出するような気がしており、その対策が必要であると感じている。
- ・剣淵川流域では、平成13年、14年も農業被害が結構でっており、これは支川の流下能力が河畔林で低下した結果によるものである。河川の管理者が異なっていて難しいと思うが、流域に住む者の願いとしてそういった所にも配慮してほしい。
- ・過去の洪水を見ると、それまで河道や堤防整備などをどのように行ってきたかが重要であり、特に堤防が一連として繋がった時期が大事である。外水に対する安全度を上げるとともに、内水対策も必要である。
- ・過去の事例から学ぶことも重要であるが、世界的に異常気象が言われており、特にここ数年、過去に経験したことのない雨の降り方をしていることから、最大限のレベルに視点を置いて治水対策を考えていくべきではないか。
- ・治水対策案の比較で、経済的に安く、効果の発現が早いのが良いという整理になっているように見えるが、多少費用がかかっても環境に配慮するのが、河川法改正の意味ではないのか。
- ・国の財政は厳しく、費用がいくらかかっても良いというわけではない。また、地域としても同じ費用であれば早く洪水をなくしてほしいという願いはあると思う。法改正による環境面の検討が見えないとの指摘については、治水の項目で議論するのではなく、本来、利水・環境の項目で議論すべきである。さらに、治水面においてもダム案は河道に対する影響が少なく産卵床、テッシの保全につながるの検討等に反映されている。
- ・遊水地候補箇所は他にも考えられ、遊水地案についてもっと検討する必要があるのではないかと。ダムに頼らず、遊水地、河川改修による治水対策を十分に検討した上で、ダム案と比較する必要がある。
- ・天塩川流域懇談会時の資料では、ダム建設コスト280億円(治水分)、遊水地コスト370億円で、ダム案の方がコストが低く、治水効果が早く実現できるとなっていたが、今回のダム案370億円(既事業費124億円含む)、遊水地ケース1案350億円、遊水地ケース2案710億円(資料2-44)の関係はどうなっているのか。内訳を明確にしてほしい。また、魚道のコストはいくらか、それはこのダム案のコストに入っているのか示してほしい。

- ・河道掘削が大きくなると環境に与える影響が大きいと思うので、整備計画の3案による基本方針流量に対応するための事業費比較だけでなく、将来計画との関連を示してほしい。
- ・河川整備計画における環境や利水面についても具体的な目標等を示すべきである。
- ・天塩川のこれからの河川整備や今後の展望を描いていくべきであり、治水とともに、河川空間の活用を検討する必要がある。例えば、川の駅を整備し、自然の良さを満喫したり都会にはない癒しを体験する天塩川などをテーマにして議論して欲しい。
- ・利水システムは、ハード面、それを運営していくソフト面においても洪水制御に関係している。したがって洪水対策は、治水の視点だけでなく、利水・環境を含めて全体的に議論した方が良いと思われる。

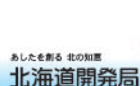
「天塩川流域委員会」委員名簿

所属	役職	氏名
北方鳥類研究所 (財)日本野鳥の会旭川支部	代表 支部長	いしかわ のぶお ○石川 信夫
道北観光連盟 名寄市物産振興協会	事務局長 事務局長	いのうえ さちと 井上 幸人
てしおがわ土地改良区	理事長	うめつ かずあき 梅津 和昭
北海道工業大学工学部	教授	おかむら としよ 岡村 俊邦
北海道大学大学院工学研究科	助教授	くろき みさお 黒木 幹男
北海道カナディアンカヌークラブ	代表	さこう つとむ 酒向 勤
北海道大学大学院工学研究科	助教授	しみず やすゆき ○清水 康行
北るもい漁業協同組合	理事	すがい よしふみ 菅井 好文
士別市	市長	たかひこ すずむ 田苺子 進
北海道大学大学院工学研究科	助教授	かちばな はるくに 橋 治國
市立名寄短期大学生生活科学科	教授	つじ じゅん 辻 玲子
旭川大学経済学部	教授	でわ ひろし 出羽 寛
北海道大学大学院農学研究科	教授	ながはら てつあき 長澤 徹明
けんぶち絵本の里を創ろう会 剣淵町議会総務常任委員会	理事 委員	ひだ てるみ 肥田 照美
天塩町	町長	ほんだ よしのこ 本田 善彦
北海道大学北方生物園 フィールド科学センター 森林園ステーション南管理部	教授	まえかわ こうじ 前川 光司
天塩川を清流にする会	会長	やまぐち けんきち 山口 研吉

【○:委員長】【〇:副委員長】、(五十音順、敬称略)

■第4回流域委員会までの議事要旨、委員会資料については、下記のホームページに記載しています。

(天塩川流域委員会事務局)



旭川開発建設部治水課内 TEL 0166-32-1111
旭川市宮前通東4155番31 FAX0166-32-2934
<http://www.as.hkd.mlit.go.jp/>

留萌開発建設部治水課内 TEL 0164-42-2311
留萌市寿町1丁目68 FAX0164-43-8572
<http://www.rm.hkd.mlit.go.jp/>